

日本中小企業学会第 35 回全国大会記 ～統一論題「地域社会に果たす中小企業の役割 —課題と展望—」～

川 上 義 明

(福岡大学商学部教授)

日本中小企業学会第 35 回全国大会は 2015 年 10 月 3 日、4 日福岡市の福岡大学で開催された。

参加人数(受付人数)は、3 日、4 日合わせて 166 人であった。自由論題に関しては 8 つの分科会において 22 の報告が行われた。

報告者には若手の研究者もみられ、統一論題とも関わる内容の報告及びディスカッションがあり、新規開業や海外進出中小企業、サプライチェーン、事業承継など、注目すべき報告が見られた。

信金中央金庫の協賛を得て実施された国際交流セッションでは、中国から池仁勇浙江工業大学中国中小企業研究院執行院長を、韓国から李浚僖(Lee Joon Hee)韓国中小企業庁中小企業政策局総括課長を招聘した。

「地域社会に果たす東アジア中小企業の役割—現状と課題—」という共通演題のもと、それぞれ「中国浙江省の中小企業と地域経済の発展」「韓国中小企業の現況及び政策と地域社会貢献」というタイトルで報告が行われた。

池氏は、中国の中小企業研究と中小企業政策に造詣が深く、研究者の立場から、中国中小企業の発展過程・現状・問題点、地域社会への貢献の今後の方向性を論じた。李氏は、韓国で実際に中小企業政策に携わっている立場から、韓国中小企業の現状、政策の変遷及び中小企業政策におけるジレンマといったようなもの、地域社会への貢献、今後の課題を論じた。両報告とも、出身国の地域における中小企業の特徴を反映した興味深いもので、中小企業に関する国際比較研究の道を開く意義があったように思う。

統一論題「地域社会に果たす中小企業の役割—課題と展望—」の報告者は、大貝健二氏(北海学園大学)、

本多哲夫氏(大阪市立大学)、大田康博氏(徳山大学)の 3 氏で、それぞれ報告テーマは、「地域資源の活用による価値創造の取り組み—北海道の事例を中心に—」「地域社会づくりと自治体中小企業政策」「地域産業の存続・発展メカニズムの転換—グローバル競争下で活発化する中小繊維企業の市場創造—」であった。

大貝氏の報告は、北海道十勝地域における経営資源を活用した中小企業を含む地域経済主体による新たな価値創造がテーマであった。本多氏の報告は、中小企業の地域社会への貢献活動促進政策をテーマとしていた。大田氏の報告はグローバル競争下での先進工業国における地域の「成熟」産業・中小企業の(言わば受け身的な)市場適応活動から市場創造的活動への変貌をみようとするテーマであった。これら 3 氏の報告に対しては、それぞれ予定討論者からコメント・質問及びフロアからの活発な質問があった。

「統一論題討論会」では、統一論題での報告を踏まえ、座長からの適切な問題設定及び解題が行われた。統一論題報告者 3 氏の報告に対して、予定討論者からの追加的コメント・質問及びフロアからの質問も交え、活発なパネルディスカッションが行われた。いずれの報告も緻密でかつよく掘り下げられたものであったが、ただ「地域社会」の捉え方が三者三様であり、また各報告内容が互いに十分に噛み合っているかどうかについては判断が分かれるところであろう。ともあれ、ディスカッションを通じて「地域」との関連での中小企業の捉え方の多様さ、難しさが浮き彫りにされ、かつ今日の課題に焦点が当てられた点では意義深かったと言える。

今回の学会の開催に当たって、大会プログラム委員である会長・副会長・論集編集委員長の方、九州

部会の先生方と、大会開催に当たって煩わしい作業を要領よくこなしていただいた大会事務局にはたいそうお世話になった。これらの先生方には、記して感謝の意を表したい。